

株式会社三祥印刷

アドバンスEXエディションで薄紙印刷の安定稼働を実現 段階的な設備更新で生産効率を追求



代表取締役社長
金澤 嗣浩 氏

「アドバンスEXエディションは、本当に良い機械です。全台アドバンスEXエディションに入れ替えたいと思います」

株式会社三祥印刷は、技術による前進をスローガンに掲げ、積極的な設備投資を通じて、製版・印刷・加工・配送まで一貫して手掛ける体制を築いてきた。同社は2024年から短期間に3台の印刷機を更新し、薄紙・超薄紙分野での安定稼働と、生産性の向上につながっている。その中核となったのが、2台のリスロンG44アドバンスEXエディションである。A全・菊全・四六全の計8台をオールKOMORI、オールHUV機として揃える中、なぜアドバンスEXエディションを選択し、同機はどのような成果を上げているのか。金澤功会長、金澤嗣浩社長、川口工場工場長の大場幸廣氏、同工場部部長の吉田裕介氏にお聞きした。

全機アドバンスEXエディションを目指して段階的な設備更新

（株）三祥印刷は、1977年に刷版専業会社として創業し、その後、製版・印刷・加工・配送まで一貫して請け負う体制を整えてきた。現在では、受託印刷を主軸に、カタログ・ポスター・書籍など多様なニーズに対応している。

同社は、創業以来KOMORI機を使い続けてきた。現在、A全判・菊全判・四六全判の計8台を、サイズ・ロット・条件に応じて使い分けることで生産性を高めている。

オールKOMORI機であることから、操作やメンテナンス、部品管理が共通化され、生産状況に応じてオペレーターが他の印刷機にも対応できる体制が整っている。全国に拠点があり、サービス技術者の数も多いKOMORIのサービス体制によって、トラブル時にも迅速な対応が受けられる点への信頼度も高い。「導入して20年、30年後を考えたときに、もうKOMORIしかないと思っています」と金澤社長。こうした長期的な信頼関係を背景に、同社は機械性能だけでなく、運用やサポートまで含めてアドバンスEXエディションを評価し、段階的な設

備更新を進めている。

導入のきっかけは、2023年3月、KGCで実施したリスロンGX40RPAドバンスEXエディションの印刷テストだった。「超薄紙が刷れるのが、ポイントでした」と金澤社長。テストでは、A判グロス25.9kgとA3コート35kgといった、あえて難易度の高い薄紙を使用した。結果は、期待を大きく上回るものだった。「驚くほどにきれいに印刷ができました。本当に良い機械だと感じ、帰る車の中で『全部アドバンスEXエディションに入れ替えたい』と思いました」

同社は、薄紙・超薄紙への対応力を

高めるため、2024年11月に、超薄紙対応を強化した仕様のA全機リスロンG37を、小ロット対応機種として導入。その成果を踏まえ、2025年11月に、四六全機のリスロンG44アドバンスEXエディション2台（GL544AとGL444A）を導入した。この2台の導入により、同社の四六全機は計5台体制となった。「既設の3台は厚紙をメインに、今回のアドバンスEXエディションの2台は性能を生かし、薄紙、超薄紙を担っています」と金澤社長。

同社は、今後も段階的に設備更新を進

める方針で、今夏には菊全機のリスロンGX40RPAドバンスEXエディションへと、更新する計画も進められている。

給排紙性能向上とe-ミスト

金澤社長がアドバンスEXエディションを高く評価する理由について「給紙部の前あて幅広化やe-ミスト、デリバリーのファンゾーン制御など、給排紙性能が向上した点が、一番良くなったところだと感じています」と話す。現場での効果について吉田部長は「前あてのセンサー部分は、紙癖があってもきちんと前あてに入るようになりました。以前は薄紙の場合、前あてを飛び越えてしまい、給紙で止まることもありましたが、今はその心配がほとんどありません」と話す。また、e-ミストによる静電気発生を抑制させる効果も大きい。「e-ミストのおかげで、静電気が原因で、次の紙を引つ張り込んでしまう現象が起きなくなりました」と給紙の安定性を語る。大場工場長は「見当精度や紙揃えの良さを日々実感しています。紙がきれいに揃って排出されるため、紙積みをし直すことなく、反転してすぐに上がり面の印刷に入れます」と、段取りの手間削減と生産効率向上を実感している。こうした効果により、今後すべての既設機に、e-ミストをレトロフィットすることを検討している。

生産性は従来よりも10%から15%は向上しています」と金澤社長。一方、薄紙の生産について吉田部長は、「印刷速度は以前より1000回転〜2000回転以上も上げられています」と話す。

アドバンスEXエディションの特長として、最新の解析技術をもとに最適化されたローラー配列、スマートインキングフローがある。これによりインキの状態変化に対する追従性が高まり、刷り出し時の調整が安定しやすくなっている。大場工場長は「より正確に早く反応するので、機長も判断がしやすくなり、色合わせに使う紙も削減できています」と、段取り時間の短縮につながっている点を評価する。吉田部長も「ローラー数が減っているので、ローラー交換やメンテナンスもやりやすくなっています。カバーを外すだけでニップ確認ができ、5分程度で日々のメンテナンスができます。また、DCブローアについて大場工場長は「前のKOMORI機から使っています。省エネ効果も高く、電気代の面で貢献しています」と省エネ効果を話す。



取締役会長
金澤 功 氏
「10年前にKOMORIの四六全両面機世界1号機を入れ、今では『四六全といえば三祥』で浸透していると思っています」



川口工場 部長
吉田 裕介 氏
「薄紙は0.04mmから印刷できます。0.06mm以上は薄いと感えずにコート紙と同じ感覚で印刷できます」

川口工場 工場長
大場 幸廣 氏
「刷り出しからOKシートを出すまでの時間がかなり短縮されており、損紙などのロスも大幅に削減しました」

生産性が10%向上 回転数上がり損紙も削減

新台導入により、生産性は向上しています。「アドバンスEXエディションになっ

「技術による前進」と KOMORIの進化への期待

金澤社長は「さらにお客様満足を図り、営業が受注を頑張る、現場が良いものを印刷する。会社のスローガンにしている『技術による前進』に継続して取り組んでいきます。KOMORIへの期待については、「機械が進化しないと、自分たちの仕事も進化しないので、今後も良い機械をつくっていただきたい」と話した。

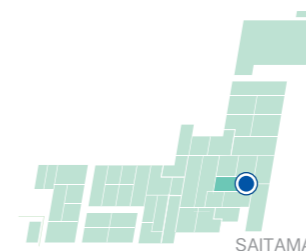
リスロンG44アドバンスEXエディションと三祥印刷の皆さま。導入にあたっては、省エネ補助金と東京都補助金を活用した。「約1年間で3台の機械更新があり、かなり資金面でも負担は大きかったのですが、KOMORIのサポートが導入の支えになりました」と金澤社長。



KP-コネクト プロを活用して全8台の機械を一元管理している。「事務所で行き先などを全て把握でき、効率も見えます」と大場工場長。進捗共有がスムーズになり、現場と事務所間のやり取りも減ったという。



インタビュー動画はこちら
<https://go.komori.com/op225/youtube/sansho/>



本社 / 東京都荒川区荒川5-31-8 三祥本社ビル
川口工場 / 埼玉県川口市赤井2-14-8
<https://www.sansho-corp.com/>
TEL / 03-3810-1821



川口工場